

《原 著》

^{99m}Tc-sestamibi 断層心筋シンチグラフィの cut off 値の変更に伴う 画像の変化と局所壁運動との関係

壁運動から検討した血流シンチグラフィの至適 cut off 値

鎌田 達也* 石丸 満喜* 小林 泰彦* 永井 義一*
伊吹山千晴*

* 東京医科大学内科学第二講座

要旨 本研究の目的は、^{99m}Tc-sestamibi 断層心筋シンチグラフィ (MIBI-SPECT) の適切な cut off 値を局所壁運動から明らかにすること、および MIBI-SPECT による壁運動に基づく viability 評価の妥当性を推定することである。

対象は初回の心筋梗塞患者 45 名である。心筋 viability 評価は、断層心エコーによる安静時の壁運動を基準とした。左室 16 領域について、MIBI-SPECT での取り込みと心エコーの壁運動とを 4 段階にスコア化し、7 種類の cut off 値 (35–65%) における取り込みスコアと壁運動スコアとの対応関係を調査した。患者を心臓カテーテル検査にて 1 枝、2 枝、3 枝病変に分け、壁運動がいかなる cut off 値による取り込みと良好な相関を示すかを検討した。

1 枝、2 枝、3 枝病変群では、それぞれ異なる cut off 値で最良の相関関係を示したが、いずれの群も相関係数の変化は大きくなく、安定していた。最良の相関をなす cut off 値は、1 枝病変では 40% ($p = 0.512$)、2 枝病変では 50% ($p = 0.424$)、3 枝病変では 60% ($p = 0.540$) と罹患冠動脈数に応じて上昇した。

Cut off 値の変更に対する相関関係の安定性から、MIBI-SPECT によっても壁運動に基づく viability の推定が可能と考えられるが、その際 SPECT の最大集積を示す領域の状態 (冠動脈狭窄と心筋梗塞) と cut off 値に留意することが望ましい。

(核医学 36: 131–138, 1999)